

ノープラ生活

毎日の生活の中で発生するゴミ(家庭ゴミ、缶、プラゴミ、不燃、再生ゴミなど)を分別する時代になってよく見ると、プラゴミが大量に出るのに驚いています。

日本のプラゴミリサイクル率は84%と言っていますが、その内訳は56%が「サーマルリサイクル」という日本独自の言葉。プラスチックを燃やして出る熱エネルギーを指し、世界では「循環する」、「回る」意味のリサイクルを、形や用途の違う物にするのはリサイクルではないという見解です。

昨今、コンビニエンスストア各社では脱プラスチックの取り組みが加速しております。ローソンはコンビニコーヒーマシンのカップを紙製に切り替える実証実験に着手。セブンイレブンのジャパンは7月中にも、おにぎり全品の包装を「バイオマスプラスチック」と呼ばれる素材に切り替える予定です。プラスチックごみ(廃プラ)削減につながる狙いがあります。



▲西尾八つ橋でも取り組みを示すロゴマークを提案



今回、プラ袋デザインの依頼がありました。株式会社サロンドロワイヤル(大阪市)、岩手県陸前高田市、東京大学(生産技術研究所、大学院農学生命科学研究科)の3者(産官学)が協働して、収益性が高くアンチエイジング効果のある食物として米国で普及している「ピーカンナッツ」の国内での生産、流通を拡大し、陸前高田市の農業再生と地方創生を目指したキモ入りの商品です。箱へのデザインに挑戦していく事が大切と考え、企画デザインしました。紙の力でガンバレ!今こそ紙を見直せる時ではないでしょうか。

便利さは二の次です。
一人一人の意識改革が大切です。

ゆるチップ (ゆき)

- ゆるチップ (ゆき)
- 230g/m²
- 古紙配合率70%
- 自然なオフホワイトベースの再生紙です。祖父江慎氏のプロデュースにより、週刊漫画雑誌などに使われている薄色(せんか紙)のイメージを板紙に再現。

